立命館宇治中学校・高等学校　2017年度　学校総括

2018年3月26日

教育目標	「自由と清新」と「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく理性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と倫理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的発展に貢献する。	中期目標	**①旺盛な挑戦心を備えた自律型学習者の育成**：高レベルでの自己実現を希求し、自ら学ぶ姿勢とリスクを恐れず高みに挑むチャレンジ精神を備えた強い生徒の育成。 **②豊かな人間性の育成と学力の伸張**：中高6年一貫の系統性、各コース（理科・文科・ＩＭ・ＩＢ）の特色を最大限に生かした学校として調和のとれた教育の推進、豊かな人間性の育成と学力の伸長。 **③大学や社会と連携したキャリア意識の醸成**：立命館大学との連携や社会の持つ教育力を有効に活用した生徒のキャリア意識の醸成。

区分		A. 課題（上位目標）		B. 目標（中位目標）		C. 達成目標（当年度目標）	D. 自己評価	E. 具体的施策（どのような方法で）
教学課題	Ⅰ	豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成	1	計画的な学力向上と自立した学習者の育成	(1)	各教科で学年毎の学力の数値目標（定期試験・模試・検定）の設定し、達成の確認を行う。 【中】3年間の到達目標（各学年目標は省略） a)英：英検準3級100%、準2級80% b)国：漢検3級100%準2級75%、読書100冊2万頁 c)数：数検3級100% d)実テ：学力推移50以上	△	各教科・分掌・学年の方針と総括の数値化 5つのスタディスキルの徹底 補習の実施 プラスRノートを活用した計画的な学習習慣の定着
					(2)	家庭学習時間向上、自学自習できる生徒育成	△	各授業課題のコントロール、アンケート数値の確認。
			2	能動的で系統的な指導の展開	(1)	生徒が授業に積極的に参加する工夫	◎	各教科での積極的な議論と工夫、交流
					(2)	図書館を積極的活用	○	図書室レファレンス能力の向上と図書の充実
					(3)	社会の変化に対応する特色ある教育の実現	◎	校外での学習支援制度の創設（教育後援会支援事業）大学教員・社会人の積極的な活用
			3	高い専門性を目指す 文科・理科コースの高度化	(1)	高大接続授業・行事の実施により、学ぶ意味を理解し高い専門性を目指す気概を育てる。	◎	高大接続授業・行事 オリエンテーションと振り返り
					(2)	大学で学ぶための必要な学力をつける。	○	模試の活用と特別授業の実施
			4	ICTを活用した学びの質的転換	(1)	中学におけるICT導入をすすめ、授業改革	◎	中学ICT教育検討委員会の新設
					(2)	高校ICT活用拡大／発表型授業・イベント実施	○	教科主任会議にて議論、タブレットを活用したアクティブラーニングの積極的導入（学びの質的転換）
			5	CSLキャリア教育の充実	(1)	大学との接続教育	◎	学部スペシャリストを軸とした大学連携 一貫教育イベントの活用
					(2)	学生講師・社会人講師・大学教員との接点拡大	◎	キャリア教育部を中心とした行事設定
					(3)	適切な進路情報の提供と状況把握	◎	IB/IM/キャリア教育部の連携と情報管理
	Ⅱ	高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成	1	異文化体験の充実	(1)	安全に留意し、質の高い留学派遣を実施	◎	国際センターによる学年と共同したコントロール。REP募集
					(2)	留学生受け入れによる校内異文化体感	◎	留学生受入数増、留学生交流企画、中学におけるAPU学生連携企画の実施
					(3)	帰国生へのきめ細やかな支援	○	帰国生への面談の実施
					(4)	学校内外での多様な異文化体験の機会提供	○	GCP参加生徒50人（前年度比150%）を目指す。
			2	高い語学運用力の養成	(1)	高い語学力の生徒への指導のシステム化	○	英語科を中心とした取り組み
					(2)	全体水準の引き上げと 高3TOEFL430全員達成	△	TOEFLの計画的実施、早期に高3の400点全員到達。
					(3)	安全な海外研修旅行の実施と新方針・入札	○	新高１の海外研修旅行については入札については9月実施
					(4)	英語を活用した行事を開催	◎	スピーチコンテスト、R-TalkUJIなどの実施
			3	特色ある教育プログラム (IB・IM)の発展と普及	(1)	SGH4年目の活動実施と文科省への報告	◎	SGH推進機構の継続、GLS実践の推進、学外ネットワークと連携した新規プログラムの開発
					(2)	IPS・IBの教育の質の向上	△	IBディプロマ全員取得、平均目標35点、40点以上3名
					(3)	海外大学進学支援	○	カレッジカウンセラーの活用、海外大学入学申請費補助金制度は終了
	Ⅲ	高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成	1	挨拶の励行と規範意識の醸成	(1)	教員からの挨拶励行	◎	朝の挨拶運動の継続
					(2)	正しい制服着用の指導を行う	◎	制服購入時・日常的な指導
					(3)	教室管理	◎	朝読書と終礼の徹底
			2	生徒が自ら主人公と思える学校運営	(1)	学園祭の改革	◎	生徒部を中心とした議論を継続する。生徒の自主的な体育祭の運営
					(2)	生徒が主体的に関わる行事運営	○	学年毎の生徒HR運営委員会の定例化。生徒間のノウハウの継承システム化
			3	クラブ・貢献活動の支援	(1)	クラブ指導者の意識を共通化	◎	クラブ顧問会議の実施、生徒による清掃活動の継続
					(2)	生徒の能力を引き出す指導と安全管理・「積極的休養」の設定	◎	外部コーチ補助制度の活用 クラブ指導計画の作成
					(3)	各種表彰の実施、全校応援／全国大会出場時の壮行会の実施	◎	始業式・終業式・卒業式での表彰、私学振興会などへの推薦、 WEBでの情報発信、駅伝や全国大会出場時の応援
			4	人権意識の涵養	(1)	視聴覚行事の有効活用	◎	総務情報部による年間計画の立案
					(2)	憲法70年企画において立命館教学理念の具現化	◎	記念式典の実施
					(3)	震災復興支援の継続	○	取り組みの校内広報強化
管理運営課題	Ⅰ	向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成	1	自立した教員集団	(1)	教育研修	◎	校内研修の実施と校外研修への派遣
					(2)	若手教員への支援	◎	新人研修や授業支援
			2	情報の共有化	(1)	教材の共有とデジタル化	◎	教材サーバー、ファイルサーバーでの教材の管理
					(2)	学事処理システムでの生徒情報の共有	◎	教務部からの指示の徹底
			3	信頼の確立	(1)	対外的な研究授業公開の実施	◎	年間計画を立案
					(2)	会議の効率化・ペーパレス化	◎	会議資料のデータ化、ペーパーレス化
					(3)	保護者アンケート生徒授業アンケートの実施	◎	アンケートの定期実施と集約
			4	新たな学校創造	(1)	内規の整備	△	執行部が責任持ち担当者作業の点検
					(2)	カリキュラム改革	◎	教育政策委員会と教員全体の議論の深化
					(3)	グローバル・ストリームの構築	△	授業内容の高度化、教材の積み上げと行事実施
	Ⅱ	地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランドカの確立と生徒募集力の向上	1	地域連携	(1)	地域との積極的連携	◎	年５回の土曜市民講座を実施する。
					(2)	登下校の安全確保と公共交通機関利用マナー向上	◎	新入学時のオリエンテーション、自転車講習会、マナー啓発運動の実施。登下校指導。バス運営会社との定期協議
			2	保護者協力	(1)	保護者会との協力共同	◎	総務情報部・学年主任を中心とした対応
					(2)	丁寧な懇談会・説明会の実施	◎	懇談会期間の設定と事前の案内文の配布
			3	生徒募集	(1)	WEBリニューアル	×	夏までに計画立案
					(2)	国内外の募集活動	○	年間活動計画の立案、中学i推薦（英検、RitsKids、指定校）の積極的アピールを行う。広報物の質を高める。
					(3)	厳格な入学試験運営	◎	問題点検・採点作業の厳格化、IPS数学の日本語廃止による入試整理
					(4)	RitsKids運営	◎	質の高い授業の提供。
	Ⅲ	魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備	1	学習環境の整備	(1)	情報環境の向上	◎	教室プロジェクタ、中学教室の無線設備の増強を予定
					(2)	生徒の安全の向上	◎	安全管理委員会、生徒会との話し合いを継続する。
			2	リスクマネジメント力の強化	(1)	防災や情報管理に対する対応強化	◎	消防・避難訓練の実施、情報管理の対応強化
					(2)	いじめ・体罰の未然防止対策の強化	◎	中学携帯電話についての指導、いじめ防止対策委員会の開催
					(3)	保護者への情報伝達手段の充実	○	お知らせメールなど保護者への情報伝達手段の効率化、スピードアップ
			3	安心安全の寮運営	(1)	学習環境の維持	◎	教員寮当番の実施
					(2)	健康管理	◎	生徒寮運営委員会の定期開催
					(3)	保護者への適切な連絡	○	連絡簿の管理
			4	将来構想の立案	(1)	学園全体での施設改善議論	◎	将来構想検討委員会への提案
					(2)	将来的な生徒寮の運用についての議論	◎	教育政策委員会での議論開始